



オクソン 倶楽部



2018年

私とオクソンの社長山口さんのお付き合いはかれこれ三十年になりましたか。

お嬢様恵ちゃんの肖像画を描かせていただいたのが機縁となります。今では女医として活躍している恵ちゃんですが、十才の頃、白いエプロンドレスを着てピアノの前に座ってもらいました。気持ちよく描けていい絵が出来、山口さんも大変喜んで下さいました。絵はずっと自宅に掛けておられました。最近その後、描いた山口さんの肖像と一緒にオクソンでお披露目となりました。

以来何点もの絵をご注文いただき描きました。オクソンビル二階の久壺庵には、名品の壺に花や果物をあしらった静物画が四季に合わせて飾られています。地下のサロンにはバイオリンとバラ、そしてアンティークドールとフルートを描いた静物画が掛かっています。それらは山口さんの拘りによるモチーフの選択と私のアイデアで出来たもので、それぞれに制作にまつわる楽しい思い出があります。久壺庵の静物画の中で最初に描いたのは青磁の壺と牡丹です。どちらも縦長の物ですが、それを飾る壁にあわせた横長のキャンバスに収めるのに苦労しました。また柿右衛門の六角鉢には青梅を、三輪休雪の萩焼の白い色には柿の赤を合わせました。

また皆さんご存知のようにオクソンは常に新しい食のアイデアを求めて研究しています。その一つとして美食家で知られた画家ロートレックが作ったロートレックメニューがあります。あれは神戸大震災の翌年、私達夫婦と山口さん母娘で南フランスを巡りました。山口さんのロートレックメニューの研究にお供させていただいたわけですが、私達夫婦はそれが初めてのヨーロッパ旅行で、セザンヌやゴッホが描いた南フランスの明るい風景に感動しながらのスケッチ旅行となりました。当初水彩スケッチだけのつもりでしたが山口さんの勧めで油絵用具を購入し描きました。ニースのネグレスコホテルのベランダから見た海岸風景や、パリのプリストルホテルの庭園風景は、描かれた絵と共に今でもその時の情景を鮮明に思い出します。感動を再びと、私は以来幾度となくヨーロッパ写生旅行に行くことになりました。

料理の世界で、お客さんが店を育てると言う言葉がありますがそれは絵の世界でも同じことで私は山口さんのお付き合いの中でご支援をいただきながら多くのことを学ばせていただきました。レストラン経営において山口さんは料理は勿論の事、インテリア、調度品、定期的に開催している音楽会などにおいて常に一流を目指しています。食文化に始まり芸術分野にも精通する山口さんは本物を見分ける嗅覚を備えておられます。

その拘りと探求心がオクソン一流の証となっています。



プロフィール

いけだ せいめい
池田 晴明 / 画家

- 1951年 岡山県笠岡市神島に生まれる。
- 1974年 大阪芸術大学卒業後、大阪府立高校美術教諭をしながら一水会・日展を中心に絵画活動。
- 1976年 一水会初入選(一水会賞、文部大臣奨励賞など)
- 1987年 日展初入選(特選2回、審査員3回)
- 1992年 小磯良平大賞展入選(神戸市蔵)
- 2010年 鎌倉へ転居。
- 2015年 笠岡市立竹喬美術館企画 池田清明展が同館にて開催。
- 2016年 大阪芸術大学教授となる。 個展:梅田画廊 日本橋三越 高島屋等。

著書:『池田清明画集』(六藝書房1998、求龍堂2013)、『池田清明の人物画テクニック』(一枚の檜)、
『ビギナーからステップアップ三原色できわめる油絵』2015(実業之日本社)

現在:一水会運営委員、日展特別会員、大阪芸術大学教授。